

大阪芸術大学×長浜の蒔絵師、そして黒壁のガラス。 長浜曳山まつりで奉納される「子ども歌舞伎」デザインを漆芸とガラスで発信。

長浜の伝統文化を活用し、次の世代に寄り添うものを発信したい。

株式会社黒壁では、2016年12月のユネスコ無形文化遺産に登録された長浜曳山まつりの優れた芸術性をガラスというマテリアルに投射した「HIKIYAMA漆ガラス」の商品開発をスタートさせました。

このプロジェクトは産学共同で、大阪芸術大学関係者と学生、地元の長浜曳山まつり関係者や漆職人、ガラス作家との連携で、伝統文化のエッセンスを暮らしの中で楽しめるガラスウェアの開発を目指します。

今回は長浜曳山博物館の会議室にて、大阪芸術大学プロダクトデザインコース准教授の道田健さん率いる学生さんによるデザインプレゼンテーション、長浜曳山まつりの文化を説明して下さる「かわ重」の川村和彦さん、「蒔治」の蒔絵師である下司貴之さんを変えてディスカッションを行いました。



大阪芸大の学生さんによる第一次プレゼンテーションを長浜曳山博物館で開催。



長浜曳山まつりで奉納される伝統行事「子ども歌舞伎」をモチーフにしたガラスウェアの第1回プレゼンテーションを開催するため、大阪芸術大学プロダクトデザインコース准教授の道田健さん率いる学生さんたち12名が長浜曳山博物館の会議室に集まりました。

今回デザインのモチーフとなるものは、子ども歌舞伎で使われる絢爛豪華な衣装の色彩や絵柄を題目毎に5つ選出し、その象徴的な衣装を漆を用いてガラスウェアに描こうというもの。学生さんの提案するデザインはそれぞれバラエティに富んだもので、可愛らしくアレンジしたものやインパクト重視、日常の暮らしで使いやすいものから、和のテイストを洋のシーンに馴染ませたものなど、実現すると面白いアイテムが多数提案されました。



子ども歌舞伎の芸術性をより深く理解するため
曳山まつりの関係者からお話をさせていただく。



今回プレゼンテーションをして頂く
学生さんに対して、より深く長浜曳山
まつりの歴史と文化、高い芸術性を
知っていただくために、長浜で陶器
販売を営みながら、子ども歌舞伎の
振付を教えておられる「かわ重」の川
村和彦さんをお招きし、貴重なお話
をして頂きました。

歌舞伎の衣裳にはそれぞれ意味が
あり、視覚的な美しさと同時にスト
ーリーを解りやすくするための仕掛
けが施されている事や、衣裳デザイ
ンの意味などを学びました。普通の
歌舞伎衣裳とは違い、長浜の子ども
歌舞伎衣裳は少し色合いがビビット
に仕上げられており、小さな子ども
の演者をより際立たせる演出がされ
ていることは新たな気づきでした。また、
蒔絵師の下司貴之さんからも漆芸に
ついてお話があり、漆の特性や独特

の色表現、メリットとデメリットをアドバイスして頂き、下司貴之さん自身も長浜曳山まつりの関係者という立場から子ども歌舞伎に対する思い入れなどを、蒔絵師の視点で語ってくれました。そして伝統を踏襲しながらも、より若者らしい独創的な表現にチャレンジして頂ければと期待を寄せられました。

